

平成26年10月発行 第62号

ダムの風だよい



国土交通省 大町ダム

“大町ダム管理所”の近況をお知らせする広報誌です！

7月下旬～9月上旬に高瀬川源流調査を実施！



- ※図中 ●：写真撮影ポイント 📷
- ① 槍ヶ岳山荘スタート直後
 - ② 双六岳雨量観測所
 - ③ 三俣蓮華岳山頂付近
 - ④ 野口五郎岳山頂付近
 - ⑤ プナ立尾根登山道中腹
 - ⑥ 燕岳山頂付近
 - ⑦ 燕山荘付近
 - ⑧ 大天井岳の北側登山道

昭和44年の豪雨災害以降、高瀬川上流の斜面崩落が進んでいるかどうか、現地に行って調査したんだね。



大町ダム管理所では、7月下旬～9月上旬にかけて、「高瀬川源流の現地調査」を実施しました。この調査は、ダムの上流に位置する北アルプスを徒歩により現地確認し、土砂の流出が懸念される斜面崩落の現状を把握する事を目的としています。

7月下旬は、槍ヶ岳、双六岳、三俣蓮華岳、野口五郎岳といった山々での現地調査、9月上旬は、燕岳及び大天井岳での現地調査を実施しました。何れも高瀬川上流に位置する標高の高い山々で、上図の赤いルートに沿って調査を行いました。とても険しい山道での移動を伴うものとなりました。

現地確認調査を行った結果、(1)硫黄尾根の斜面（下の写真左・中央）、(2)高瀬ダムに流れ込む不動沢や濁沢（図中写真⑤）などで斜面の崩落が発生していることを確認しましたが、昭和44年の豪雨災害で崩落が進んだほとんどの斜面において、植生が回復し、安定してきている事が確認できました（下の写真右のような斜面状況）。



硫黄尾根 北側斜面の崩落状況 (7月26日撮影)



硫黄尾根 南側斜面の崩落状況 (9月8日撮影)



燕山荘付近から大天井岳を望む (9月7日撮影)

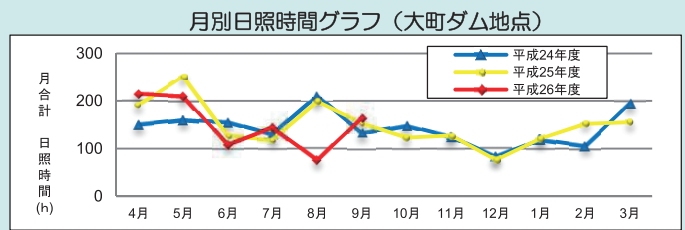
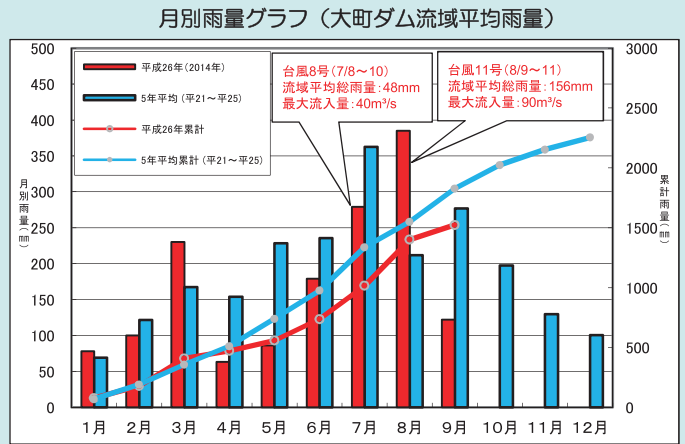
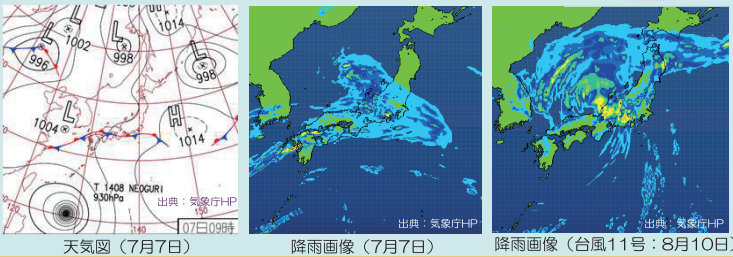
6月～9月の雨と出水について

6月は梅雨前線が日本列島から離れた南方にあり、全国的にまとまった雨が降りませんでした。

7月に入り台風8号が上陸した際、日本列島の南に停滞していた梅雨前線との影響で、各地で大雨となりました(下の7月7日天気図と降雨画像)。長野県南木曽町では7月9日、局地的に記録的な豪雨となり、土石流災害が発生しました。ただし、大町ダムでは流域平均総雨量48mmとそれほど雨が降らず、結果として、7月は例年よりも少雨な月となりました。

8月に入っても太平洋高気圧の日本列島付近への張り出しが弱く、再び台風11号が上陸しました。この際、大町ダムでは流域平均総雨量156mmを観測しましたが、ダムへの最大流入量は90m³/sで、ダムで洪水を貯め込む「防災操作」が必要な流入量200m³/sには達しませんでした。8月はその後も天候不順が続いたため、例年よりも多雨・日照不足の月となりました。

9月に入ってから晴れの日が多くなり、例年よりも少雨で、日照時間が多い月となりました。



大町ダム周辺の紅葉の見頃

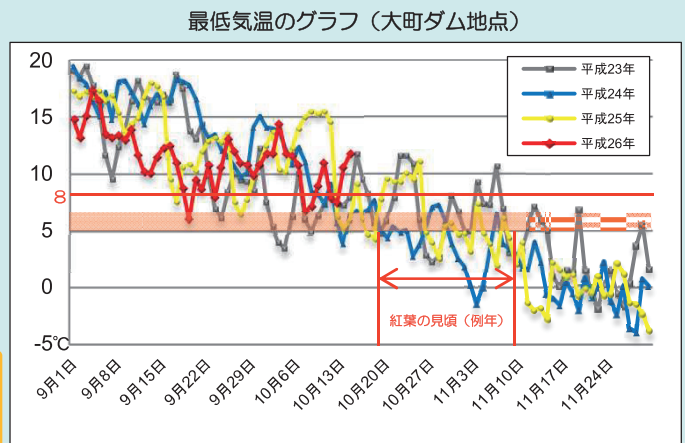
高瀬渓谷では、例年10月下旬～11月上旬にかけて紅葉が見頃となります。紅葉になるには、十分な日射量と気温の低下が必要で、最低気温が8℃以下になると紅葉が始まり、最低気温が5～6℃になると紅葉が進んで見頃になると言われています。

今年は9月に入ってから天気の良い日が続き、朝晩はぐっと冷え込む日がありましたので、紅葉の見頃が1週間程度、早めにやってくると予想されます。また、台風で葉が落ちてしまう事も少なかったため、よりきれいな紅葉を見る事が出来ると思います。

是非、高瀬渓谷で紅葉狩りをお楽しみ下さい(*^_^*)

紅葉のしくみ

秋になると鮮やかな黄色や赤色の葉が見られるのは、葉の中で化学反応が起こっているためです。葉の中にある「クロロフィル」という緑色の色素が分解されて「カロチノイド」という黄色の色素が目立つようになるのが「黄葉」、分解された「クロロフィル」が葉の中の糖分と化学反応を起こして「アントシアン」という赤い色素が生成されるのが「紅葉」です。「クロロフィル」の分解と「アントシアン」の生成は、日射と低温の両方によって誘導されると考えられています。つまり、天気が良くて冷え込みが厳しい秋の時期に、鮮やかな紅葉が見られるという事になります。



1 高瀬渓谷緑地公園(下部) (平成25年10月25日撮影) 2 高瀬渓谷緑地公園(上部) (平成25年11月1日撮影)



3 ダム湖パノラマ写真(平成25年11月8日撮影)

洪水から地域の人々の生命や財産を守り、ふるさとの大切な水資源を活かすことが大町ダムの使命です。ダムに関するご意見やご要望もお待ちしております。

国土交通省 北陸地方整備局 大町ダム管理所

〒398-0001 長野県大町市平宇ナロラ大クボ2112-71 TEL. 0261-22-4511(代) FAX. 0261-22-4512

<http://www.hrr.mlit.go.jp/omachi/>

